



平成25年度 総会 開催

去る平成26年3月20日(木)、東京都目黒区の目黒雅叙園にて、「平成25年度 第4回理事会・第2回代議員会 合同会議」、「平成25年度 特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会 総会」が開催されました。

理事会・代議員会合同会議では、鈴木大地会長の司会のもと、事業活動報告のほか、主に2020年東京オリンピック・パラリンピック成功に向けてどういった活動ができるのか、どういった取り組みができるのかについて話し合われました。

その中で、前回の東京オリンピックをご存知の方の体験や記憶を伺いながら、既に形のあるものを広げる形で実現できるものを実現していくなどの意見が出されました。その他、具体的に進んでいるプランや、プロジェクトについても報告がありました。

引き続き開催された総会では冒頭に、竹田恆和名誉会長(JOC会長)からご挨拶をいただきました。2020年東京オリンピック・パラリンピック招致の勝因は、「2016年大会招致の際の反省と経験をしっかりと活かして、政府・東京都・経済界・スポーツ界が一丸となってAll Japanで協力できたこと。またスポーツ界から大きな支援があり、「勇気」と「夢」、「スポーツの力と価値」といった大きなテーマを世界中に発信することができたこと。」とまとめられました。続けて「2020年東京オリンピック・パラリンピック成功にはオリンピックの活躍が必要です。よろしくお願いします。」とオリンピックに協力依頼がありました。その後、招致決定までの道のりをまとめた映像を見ながら、参加者全員で招致決定の喜びをもう一度分かち合いました。

懇親会

平成25年度総会に引き続き、会場を隣のシリウスに移して懇親会が開催されました。

最初に鈴木大地会長より、「会長に就任して一年間、無事に運営することができました。皆様、ご協力ありがとうございました。世代を越えて、競技を越えて、オリンピックが一丸となって、2020年東京オリンピック・パラリンピックを成功させましょう。」という力強い挨拶がありました。続けて堀越保さんに乾杯の音頭をお願いしました。「6年後の2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功とオリンピックの益々のご健勝、オリンピックに向けてのご活躍を祈りまして—乾杯!!」との掛け声に、参加された皆さんの心を一つにした大きな「乾杯!!」の音が響きました。

会場では、最高齢85歳の橋爪四郎さんをはじめ、たくさんの会員の方がグラスを片手に歓談される姿がありました。懐かしい思い出話や近況など、つきない話題に華をさかせ、まさに世代や競技の枠を越えて楽しい交流の場となりました。

その後、大会ごとであったり、競技ごとであったり、懐かしい顔触れであったりと、様々な形で写真を取り合ったりしながら、本当に楽しくすばらしい時間をすごしました。

まだまだ盛り上がり納まらない中でしたが、小野清子副会長より、「また元気に、来年お会いしましょう!」と閉会の挨拶があり、来年の再会を誓いながら楽しい時間を終えました。



「また元気に、来年お会いしましょう!」

—小野清子副会長

オリンピックの人間力

「オリンピックの人間力」では、まなざしの奥に潜在するオリンピックの人間力に迫ります。このインタビューは、OAJウェブページ(<http://www.oaj.jp>)でご覧いただけます。
(文：田中清行)



モントリオール大会／体操・男子団体総合金メダル

ミュンヘン大会／加藤選手のつり輪の演技

写真提供：フォート・キシモト

練習つきやない

第28回
かとうさわお
加藤澤男

体操／メキシコ、ミュンヘン、モントリオール

加藤澤男の体操はことごとく細部まできれいだった。驕ったところのない奥ゆかしい体操だった。白いタイトの軌跡が美しかった。完成度の高い演技だった。そして勝った後のインタビューの少しはにかむような穏やかで上品な小声を思い出す。三大会に出場し金8個、計12個のメダルを獲得したミスターオリンピック、ミスター体操に、青葉繁れる五月の終わりに現在教鞭をとる白鷗大学で、最初のオリンピック出場までのお話を伺った。

子どもの頃は冬はスキーで夏は水泳、体操は遊びでした。中学校に入った時も本当は野球をやりたいかったのに、お前までやるな、のアニキの命令で断念しました(笑)。数年先に新潟に国体が来るとされていた、中学2年の頃、体操の有望株を集めて来たる国体に備える動きがあったらしく、新潟南高校に来ないかとの誘いがありました。

高校には声をかけられた4、5人が県内から来ていて、僕は新潟市内の叔父のところへ寄宿して通いました。高校の練習はいたって自由で、強制も何もなかった。ただ夜間部があり、体育館は夕方6時には渡さなければならぬ約束だったので、2時間の練習は必死でやりました。高校1年と3年とでは身長も骨格も変わるし、それに伴って体操の技や質もガラッと変わる。この3年の変化は大きい。自分はひ弱な方でコンスタントな成長だったけど、それでも中学時の自分と比べると別人のようになったと思う。高校から始めるあん馬、平行棒、つり輪にも新鮮な思いで取り組みました。

高3、東京オリンピックのために6月開催(普段は10月)とされた新潟国体で、高校男子団体総合で優勝、種目として表彰はないのですが個人総合でも一番でした。新潟国体に向けての県の長年の夢が果たせて一安心。ちょうど50年前の1964年のことです。

その年の東京オリンピックではローマ大会に続いて遠藤幸雄選手を中心に体操日本の面目躍如

国体が終わって2週間後に新潟地震でした。4階建てのアパートは倒れるし、学校の傍にあった完成したばかりの信濃川にかかる昭和大橋が、その日帰ろうとしたらなかった(笑)。わが目を疑いました。地震直後に始まった進路指導での僕の、東京教育大に行きたいと思います、に対しては、6.4でダメだな、と言われたのを覚えています。確かにあまり勉強していませんでしたが、クソッと思って、それから猛勉強しました。

大学では体操の練習の合間に授業に出るといった日々でした。大学3年、4年の頃は大学紛争が激化して、教育大もご多分に漏れず、ロックアウトされて授業はできず、僕らの体育学部も閉鎖されてしまった。そんな中でも目の前にはオリンピックがぶら下がっており、ムキになって練習していました。4年時は教育実習から帰ってからも延々と練習しました。

体育学部の連中は学生運動に意外とそっぽを向いていたんですが、いよいよ身近に迫り現実、練習ができない破目に陥ると、体操部に限らず、彼らから学校を守る側に立ちました。メキシコから帰って来た時はまさにあの新宿騒乱でした。

加藤さんの小声で噛みしめるような話し方がいい。正確に話そうとして言葉を吟味して選ぶ律義さがいい。そして相手の言わんとするところを早く正しく把握しようとする慮りがいい。お話の面白さに引き込まれて、半世紀前の時代風景に触れることができた。最後に極秘情報だが、加藤さんの好きな食べ物かうどん、蕎麦、パスタ等の麺類(穀物類)であること、不得手なのがクワイであることを添えておく。

1968年のメキシコオリンピックで加藤さんは男子団体総合と個人総合で金メダルを獲得、床運動金、つり輪銅

選手時代は酷いケガであろうとも厳しい試合を多く戦ってきました。初めの内は割にいい条件で練習も試合もできるものですが、その後ケガや様々なハンディを背負った中で勝ち続けて行かなくてはいけなくなる。それにはどうするか。やはり練習つきやないんです。人間だから欲をかきたくなるけど、雑念が消えるくらい練習するんです。本番では6割自分の力を出せば上出来、それで勝てと言われていました。ちょっとおかしいんじゃないかとも思いました(笑)。どっちみちあれこれあるのはわかっているから、6割の力で優勝できる域に行っていなさいってことです。それには練習です。練習中は全然カッコよくない。黙ったままで白い粉にまみれて、失敗ばかりしている。しかし経験を積むにつれてだんだん練習の中身が濃くなっていく。大きい試合で自分を見失うようじゃ困る。そのためにもやっつけておかねばならぬことがある。どこからどう考えても最後は練習しか頼れるものはないということです(笑)。



オリンピック：加藤澤男(かとう・さわお)

1946年新潟県生まれ。東京教育大学卒。国際体操連盟技術委員、筑波大学教授を経て白鷗大学教授。日本体操協会評議員。メキシコ、ミュンヘン、モントリオールのオリンピック3大会に出場。金8個、銀2個、銅2個のメダルを獲得。金8個は日本人選手最多。



バレーボール教室

埼玉県深谷市／平成25年12月8日

共催 公益財団法人深谷市地域振興財団

深谷市総合体育館にて、バレーボール教室を開催。講師には、パルセロナ大会、アトランタ大会出場の中西千枝子さんと、アトランタ大会出場の坂本清美さんを迎え、小学4～6年生まで76名が参加しました。

実技指導では基本を徹底する指導が行われ、パス練習ではオーバーパス・アンダーパスともに構えの姿勢からボールを受ける位置や足の向き、声だしについてなど実際に良い見本と悪い見本を見せながらの指導が行われました。子どもたちは普段なげなくやっていることも、教えてもらったコツや注意点を1つ1つ意識しながら一生懸命取り組んでいました。



バスケットボール教室

静岡県袋井市／平成26年2月22日

共催 一般社団法人袋井市スポーツ協会

袋井市民体育館にて、バスケットボール教室を開催。講師には一乗アキさん、参河紀久子さん(ともにパルセロナ大会出場)を迎え、中学生の女子選手59名が参加しました。

実技指導ではステップを中心としたアップからはじまり、ボールハンドリングやドリブル、パス、シュートと、基本を中心とした指導が行われました。ドリブル練習やパス練習では、ただフォームなどを教えるものではなく、判断力や周りを見る力などもつくような練習も行われました。参加者もオリンピックによるデモンストレーションやワンポイントアドバイスを聞いて、それを実践しながら、直接オリンピックに個別アドバイスを求めたり、繰り返し練習する姿が印象的でした。



子どもゆめ基金助成活動

オリンピックふれあい交流事業

主催 特定非営利活動法人日本オリンピック協会
協力 公益財団法人日本オリンピック委員会



卓球教室

北海道標津町／平成26年2月2日

共催 標準スポーツクラブ

標津町総合体育館において卓球教室を開催。講師にソウル大会に出場の宮崎義仁さんを迎えて、小・中・高校生40名が参加しました。

実技指導では、基本動作にはじまり、決まったコースに順番に打ち分けたり、フォア・バックを決められた順番、コースに打つ練習が行われました。普段行っていない頭を使いながらの練習に最初は四苦八苦しながらも、一生懸命実践していました。実技指導の後にはミニゲームを行い、たくさんの相手との白熱した実践を体験しました。

子どもたちそれぞれの戦術のタイプや特徴にあわせた指導・練習方法のレクチャーなども行われ、参加者だけではなく指導者の方々も熱心に取り組んでいました。



陸上教室

東京都江東区／平成26年3月2日

共催 江東スポーツ施設運営パートナーズ

江東区夢の島陸上競技場において陸上教室を開催。講師に男子110mハードルでシドニー大会とアテネ大会に出場の谷川聡さんを迎えて、小学生36名が参加しました。

実技指導では、まずウォーミングアップとして2人組ペアになり体操を挟みながら、ウォーキングからスキップ、ジョギングなどを行いました。フォームだけではなく「顔をこわばらせないで」、「声をだしながら」など身体全体の使い方などのアドバイスがありました。後半はハードルを使った指導も行われ、普段学校等では教われない指導に、子どもたちは楽しそうに取り組んでいました。



OAJ NEWS

Olympians Association of Japan

発行日: 2014年7月15日

発行人: 特定非営利活動法人日本オリンピック協会

編集・発行人: 鈴木大地

製作: 日本印刷株式会社

〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1 国立代々木競技場内

TEL: 03-5738-3047 FAX: 03-5738-3048

URL: <http://www.oaj.jp>

※本誌に掲載されている内容の無断転載・複製を禁じます。

事務局だより

今号より、本広報誌「OAJNEWS」をリニューアルいたしました。

本年度は従来の事業に加え、1964年東京オリンピック開催50周年事業や、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会の機運醸成のための新規事業も予定しております。より一層の皆様のご参加、ご協力を心よりお待ちしております。